

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 18 日現在

機関番号：32623
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2008～2011
 課題番号：20320063
 研究課題名（和文）日本人英語学習者の話し言葉・書き言葉コーパスの整備とそれに基づく語用論的対照分析
 研究課題名（英文）Development of Japanese Learners' Written and Spoken English Corpora and Comparative Studies on Their Pragmatic Aspects
 研究代表者
 池上 嘉彦（IKEGAMI YOSHIHIKO）
 昭和女子大学・文学研究科・特任教授
 研究者番号：90012327

研究成果の概要（和文）：今回の研究においては、最初に、本科研費研究期間以前に収集が終了していた日本人英語学習者の話し言葉（LINDSEI：Louvain International Database of Spoken English Interlanguage）及び書き言葉（ICLE：International Corpus of Learner English）のコーパスを更に精査した。次に、その語彙、構造、談話の特徴を分析し、特に語用論的運用力の発達について、他の母語を持つ英語学習者や英語母語話者の場合との比較対照研究を進め、研究成果を発表し、更にそれに加えて、ICLEのエラータグ付き日本人サブ・コーパスを利用し、大学生が Web 上で利用できる学習ツールの作成にも取り組み、サイトを公開した。

研究成果の概要（英文）：In this project, we have been working mainly on three things: First, we have closely reviewed the LINDSEI (*Louvain International Database of Spoken English Interlanguage*) and ICLE (*International Corpus of Learner English*) in order to finalize both corpora. Then, using these corpora, we have done some comparative studies on various linguistic aspects among Japanese English learners, non-Japanese English learners and English native speakers. Finally, we have uploaded Web pages that university students can use for studying English based on the errors shown in ICLE Japanese sub-corpus.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2009 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010 年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2011 年度	2,200,000	660,000	2,860,000
総計	8,400,000	2,520,000	10,920,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：日本人英語学習者・書き言葉・話し言葉・ICLE・LINDSEI

1. 研究開始当初の背景

当初、‘Survey of English Usage’ というプロジェクトとして 20 世紀後半にイギリス英語の収集で始まったコーパス研究は、イギリス以外の各地の英語使用国における慣用 World Englishes コーパスの作成へと拡大さ

れて来ていた。更に、数年前から非母語話者、とりわけ大学生上級レベルの英語学習者を対象に、英語コーパス作成が始まり、平成 14 年秋には、その時点までに収集されていた書き言葉の ICLE コーパスを集約して、初の CD-ROM が出版される段階までになった。

本研究も、全世界的規模の共同研究である

ICLE 作成プロジェクトの日本人英語学習者について資料収集を委嘱されているという事情から出発したものである。

その後、書き言葉を中心としていた ICLEに加え、更に話し言葉を集めた LINDSEI コーパスまで拡張され、それぞれ他国の研究者との共同比較対照研究を遂行する段階となっていた。

これら学習者コーパスは、英語学習者の中間言語、第二言語習得、外国語教授法等の多分野の研究への大きな貢献が期待されており、E-learning をはじめとして、コンピュータを利用した学習が広く行われるようになってきている状況を考慮すると、ICLE や LINDSEI 関連のコーパスを利用した、英語学習教材の開発を容易にする有用な資料となることが期待されていた。

2. 研究の目的

すでに収集が終わった日本人英語学習者の話し言葉 (LINDSEI) 及び書き言葉 (ICLE) のコーパスを整理し、その語彙、構造、談話の特徴を分析し、特に語用論的運用力の発達について、他の文化圏の英語学習者の場合と比較対照しつつ研究を進めることを目的とした。上記の2つのコーパスを基に、コーパス分析ツール (WordSmith 等) を用いて、語句の頻度、コロケーション、N グラム等を調査し、ICLE、LINDSEI 参加国の様々な母語を背景としたコーパスと比較し、日本人英語学習者の英語運用能力を検討すると共に、言語と認知の関連性を研究した。また、英語母語話者のデータである LOCNESS (Louvain Corpus of Native English Speakers) と日本人学習者の語用論的運用力に関する研究も進めた。一方、ICLE のエラータグ付き日本人サブコーパスを整備して、大学生が Web 上で利用できる学習ツールの作成も目指した。

3. 研究の方法

ICLE 並びに LINDSEI の日本人サブ・コーパスの整備とそれらのデータを利用した研究を、以下の4点を中心に推進した。

- (1) 話し言葉コーパス LINDSEI の日本人サブ・コーパスの整備と出版のための準備
LINDSEI は、ベルギーのルーベン大学が中心となっている国際的共同プロジェクトであり、他の協力国のデータと共に、2010年に出版するためのデータの整備を行った。
- (2) LINDSEI 日本人サブ・コーパスのエラータグ付け
日本人英語学習者の話し言葉の英語につ

いて、英語母語話者によるチェックを得て、エラータグ付けを行った。

- (3) ICLE/LINDSEI を利用した Web 教材の作成
日本人学習者の英語の誤りの特徴をまとめ、そこに焦点を当てた学習教材を Web 上に公開した。
- (4) ICLE/LINDSEI を利用した語用論的研究
研究分担者がそれぞれのテーマに基づいて、ICLE/LINDSEI を利用した研究を進め、学会等で発表を行うと共に、ICLE/LINDSEI をテーマとしたシンポジウムを日本で開催した。

4. 研究成果

- (1) 話し言葉コーパス LINDSEI の日本人サブ・コーパスの出版
世界 11 か国の大学上級レベルの学習者の英語の話し言葉データを集めた LINDSEI は 2010 年に UCL Presses (Universitaires De Louavan) から出版 (ISBN: 978-2-87463-245-7) され、2009 年に出版した日本人サブ・コーパスが掲載された ICLE version 2 (ISBN: 978-2-87463-143-6) と共に、本研究の大きな成果である。

LINDSEI 日本人サブ・コーパスには 51 のインタビューが収められており、総語数は 56,239 語となっている。その内、学習者のみの総語数は 37,126 語で、一人の平均語数は 728 語である。インタビュー時間は平均 14 分 2 秒であった。インタビューを受けた者の平均年齢は 19.55 歳で、英語学習履歴の平均は 7.88 年、大学での英語学習年数は 2.55 年となっている。

- (2) LINDSEI 日本人サブ・コーパスのエラータグ付け
母語話者による誤用のチェックは 2008 年に終了したが、どのようなタグをつけるべきかについて結論が出ていないため、タグ付は未終了である。



エラータグにはさまざまな種類がある。誤りの原因を説明するタイプ (例: 母語の干渉、学習方略、学習方法など) が望ましいが、本コーパス作成に際しては、そのためのデータ収集を行なっておらず、現時点では、日本人学習者の英語の定着度を分析するため、伝統的な文法カテゴリーに従って分類するタイプ (例: 名詞の単複・動詞の活用・否定形など) も候補にあがっている。

- (3) ICLE/LINDSEI を利用した Web 教材の作成
2012 年 3 月に ICLE に見られる日本人学習

者の誤用を基にして、慣用表現を学ぶためのサイト (<http://aso.swu.ac.jp/corpusjp>) を公開した。

① 問題サンプル(第1ページ)

『英語のメニューを入れ替え定食・セットフリーズ』—学習者コーパスから学ぶ—

INDEX  

【1】 a ~ of, a ~ ~ of		
①		
②		
③チャレンジ問題		
(1)	(2)	(3)

② 問題サンプル(第2ページ)

【1】 a ~ of, a ~ ~ of

①以下の文は、ネイティブスピーカーのコーパスなどから抽出したものです。a と of に囲まれて使われている表現を見つけ、入力してみよう。
※解答、スペースは半角文字で入力してください。

- College used to be a place where you could get a taste of the real world.
- Every individual holds a different perspective of life.
- It is difficult to face your family with a confession of unhappiness.
- Many people question if it is a violation of the athletes' rights to privacy.
- Many women ended up unhappy with a good deal of their whole life.
- Morns are a standard of behavior that must be followed.
- Every scientist should be a good judge of the possible dangers of his work.
- The agricultural industry contains a large amount of cattle that should be killed for meat.
- There has always been a wide range of reasons why people don't eat beef.
- Under this reform, the age where you can drop out was raised to 18, thus ensuring a longer span of education.

採点 リセット 解答 [WEB版から見る](#)

今後、このようなサイトをどのように充実させていくか等については検討中である。

(4) ICLE/LINDSEI を利用した語用論的研究と成果発表

第11回 IPrA 国際大会では日本人大学生の英語での Cohesive Ties の発達について、第12回 IPrA 国際大会では受け身表現の使

用についての発表を行ない、研究分担者の多くが参加した。また、無生物主語、come と go の認知的差異など、それぞれのテーマに従って ICLE/LINDSEI の日本人サブ・コーパスを利用した研究を進め、学会発表を行った。2010年には、昭和女子大学に於いて ICLE/LINDSEI シンポジウムを開催し、ICLE/LINDSEI の本拠地であるベルギー、ルーベン大学の Centre for English Corpus Linguistics (CECL) から Dr. Gilquin 氏を招聘し、午前中にワークショップ、午後に講演と研究発表を行った。参加者からの ICLE/LINDSEI についての質問や意見等も多く、これらのコーパスへの関心が高いことが伺われた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 36 件)

- 「日本語話者における〈好まれる言い回し〉としての〈主観的把握〉」, 池上嘉彦, 『人工知能学会誌』, 査読無, vol. 26-No. 4, pp. 317-322, 2011.
- ‘What Some Studies on ICLE/LINDSEI Japanese Sub-Corpora Show’, Tomoko Kaneko, *Gakuen* (昭和女子大学紀要), 査読有, 846, pp. 2-16, 2011.
- 「International Corpus of Crosslinguistic Interlanguage (ICCI) : 英語初学者データの国際比較」, 投野由紀夫 (著), 峰岸真琴・他 (編) 『コーパスに基づく言語学教育研究報告』, 査読有, No. 7, pp. 55-69, 2011.
- 「日英移動動詞 COME と GO の対照研究: 認知言語学の視点から」, 高野恵美子, 『学苑』(昭和女子大学紀要), 査読有, 846, pp. 28-39, 2011.
- ‘Teaching for Understanding’, Tomoko Kaneko, *Gakuen* (昭和女子大学紀要), 査読有, 834, pp. 2-14, 2010.
- ‘The Development of Cohesive Ties in English by Japanese University Students’, Tomoko Kaneko, Takako Kobayashi, Emiko Takano, Misuzu Takami, Mika Ishizuka, Sayo Natsukari, & Naoko Akahori, *Gakuen* (昭和女子大学紀要), 査読有, 832, pp. 12-24, 2010.
- 「認知言語学における〈事態把握〉」, 池上嘉彦, 『言語』, 査読無, 10月号, pp. 62-70, 2009.
- ‘Use of Mother Tongue in English-as-a-foreign Language Speech by Japanese University Students’, Tomoko Kaneko, *Gakuen* (昭和女子大学紀要), 査読有, 822, pp. 25-41, 2009.

- ⑨ ‘The Role of Corpus Linguistics in Redefining SLA’. Young-Se Kang, et al. (eds.), Tono Yukio, *Current Issues in Linguistic Interfaces 2 vols.* 査読有, vol.2, pp.499-513, 2009.
- ⑩ ‘Sensory Learning Style Preferences and Vocabulary Learning’, Sayo Natsukari, *Gakuen* (昭和女子大学紀要), 査読有, 823, pp.25-38, 2009.
- ⑪ 「‘Natural English’ とは何か」, 池上嘉彦, 『新時代の英和辞典を考える-『ロングマン英和辞典』の挑戦』(桐原書店), 査読無, pp.3-7, 2008.
- ⑫ ‘The Status of English in Japan’, Yoshihiko Ikegami (with Tomoko Kaneko), Sylvia Granger, Estelle Dagneaux, Fanny Meunier, and Magali Paquot, eds., *International Corpus of Learner English, version 2*, 査読無, Press Universitaires de Louvain, pp. 186-191. 2008.
- [学会発表] (計 44 件)
- ① ‘Differences between English and Japanese construal in the usage of deictic motion verb COME and GO: from the viewpoint of Cognitive Linguistics’, Emiko Takano, *Cognition, Conduct & Communication* (CCC 2011), 2011/10/6, University of Lodz, Poland.
- ② ‘Inappropriate Uses of Psychological Verbs by Japanese Learners of English’, Misuzu Takami, Naoko Akahori, *Learner Corpus Research 2011* (LCR 2011), 2011/9/17, Universite Catholique de Louvain, Belgium.
- ③ ‘L1 Effect on Interlanguage Passive Expressions’, Tomoko Kaneko, Mika Ishizuka, Sayo Natsukari, Emiko Takano, Misuzu Takami, The 12th International Pragmatics Conference (IPrA 12), 2011/7/4, University of Manchester, UK.
- ④ ‘Learner Corpus Research: Some recent Trends’, Yukio Tono, ICTATLL-The 6th ICTATLL International Conference: Application of Corpus and ICT for Language Studies, 2010/9/21, Kyoto Campus Plaza.
- ⑤ ‘Japanese as the Devil’s Language - An Essay on Linguistic Prejudice: International Conference: Japan as Images: Crossing Viewpoints of Europe and Japan’, Yoshihiko Ikegami, Vytautas Magnus University, Japanese Studies Centre, 2009/10/15, Kaunas, Lithuania.
- ⑥ ‘The Development of Cohesive Ties in English by Japanese University

Students’, Tomoko Kaneko, Takako Kobayashi, Misuzu Takami, Mika Ishizuka, Emiko Takano, Sayo Natsukari, The 11th International Pragmatics Conference (IPrA11), 2009/7/16, Melbourne, Australia.

- ⑦ ‘Preference between Subjective and Objective Construal: Towards a Speaker-Focused Approach to Contrastive Linguistics’, Yoshihiko Ikegami, 5th International Contrastive Linguistics Conference, 2008/7/7, Leuven University, Belgium

[図書] (計 16 件)

- ① *Use of English by Japanese Learners of English -Study of Errors-*, Tomoko Kaneko, 2011, 184 ページ, 三秀社.
- ② 『第二言語習得』, 「第 5 章・学習者言語」, 佐野富士子・岡秀夫・遊佐典昭・金子朝子編著, 2011, 302 ページ, 大修館書店.
- ③ *Louvain International Database of English Interlanguage*, Gaëtanelle Gilquin, Sylvie De Cock & Sylviane Granger, Tomoko Kaneko et al., 2010, 111 ページ, UCL Press: Universitaires de Louvain.
- ④ 『大学英語教育学 その方向性と諸分野』, 森住衛他編 金子朝子他 30 名著, 2010, 286 ページ, 大修館書店.
- ⑤ 『コーパスと英語教育の接点』, 中村順作・堀田秀吾編著 金子朝子 投野由紀夫, 2010, 231 ページ, 松柏社.
- ⑥ *International Corpus of Learner English Version 2*, S. Sylviane Granger, Estelle Dagneaux, Fanny Meunier & Magali Paquot, Tomoko Kaneko et al., 2009, 233 ページ, UCL Press: Universitaires de Louvain.

[その他]

ホームページ等

<http://aso.swu.ac.jp/corpus.jp>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

- ・池上 嘉彦 (IKEGAMI YOSHIHIKO)
昭和女子大学・文学研究科・特任教授
研究者番号：90012327

(2) 研究分担者

- ・金子 朝子 (KANEKO TOMOKO)
昭和女子大学・文学研究科・教授
研究者番号：10138505

- ・投野 由紀夫 (TONO YUKIO)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：10211393
- ・小林 多佳子 (KOBAYASHI TAKAKO)
昭和女子大学・文学研究科・准教授
研究者番号：50249009
(H22：削除)
- ・高野 恵美子 (TAKANO EMIKO)
昭和女子大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：90338541
- ・高味 み鈴 (TAKAMI MISUZU)
昭和女子大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：30226922
- ・赤堀 志子 (AKAHORI NAOKO)
昭和女子大学短期大学部・文化創造学科・講師
研究者番号：80327949
- ・石塚 美佳 (ISHIZUKA MIKA)
東京工科大学・コンピュータサイエンス学部・准教授
研究者番号：90331503
- ・夏苺 佐宜 (NATSUKARI SAYO)
立教大学・ランゲージセンター・教育講師
研究者番号：50449097

(3) 連携研究者

- ・Rod Ellis (University of Auckland, Professor)
- ・Sylvaine Granger (University Catholique de Louvain, Professor)